

女性達からのメッセージ

②

東日本大震災の被災地 宮城県石巻市から

2016年7月

1) Aさん(60代)

2015年10月24日

避難する時、海の上を歩きました。ヘリコプターに手を振り、“生きている”と伝えたかったです。悲しいとか苦しいという感情はなかったです。地震の後、なぜかすぐにラジオだけを持って逃げました。1日中、飲まず食わずで彷徨いました。やっと山の上のゴミ処理所の廃屋へたどり着きました。難民として帰る所がないって、こういうことかなあと思いました。ご遺体を捜索していた自衛隊が、一体一体に手を合わせていました。3.11に歯医者に行く予定だった夫が、なぜか前の日に変更になったから一緒に逃げるのができませんでした。

まず自分だけを守ること、自分の命は自分しか守れないのです。人を待たないで、逃げる。いろんな感情が混じりますが、家が津波で破壊されたことは悲しくないんです。肉親を亡くした人の方が悲しいでしょう。妹が精神をやられて、励ましの仕方がむずかしいです。未来がどうなるかわかりません。

津波の数日後、家に戻るとサボテンの鉢植えだけが2階に残っていました。息子が2階から持って降りてきたんです。あんな状況で緑を見るなんて驚きました。そのサボテンを大切に育てているのですが、あれ以来、咲きません。水仙も庭に残っていましたので、それも掘り起こして持ってきました。

11日目に避難所から仙台へ移りました。3年間、仙台に住みました。散歩しながら他所のお宅の庭に、かつての我が家にあった植物を見ると悲しかったです。煮物の匂いで故郷を思い出して、「どうして、ここに自分がいるの？」とハッとしたこともあります。仙台のバスの中で「コンサートの案内」というアナウンスを聞いた時、なんて石巻と違うのだろう、別世界なんだなあと驚きました。

3.11をきっかけに一步踏み出しました。それはやめたかった電気屋をやめること。忙しすぎたの。メンテナンスや修理、経理など50年間働いて、生活よりも仕事が優先でした。バス待ちの人が寄りあう場所でもあったし、ホームレスや老人も、よく来ました。最近の電化製品は壊れると、部品交換で済むのに、すべて買い替えするシステムになっていて、無駄なものです。今は一日一日を生きていて、生きがいであった仕事がないけれど、大切なことはお金ではないとわかりました。アボカドを震災後から育てています。子供のころから石や木の化石を拾うのが好き。

地震の後、近所の人、車を取りに戻って亡くなりました。津波が来るから行っちゃ駄目だと強くひきとめればよかった。ニコッて笑った姿が忘れられず一生ひきずるだろうと思います。2011年5月12日に5人の親戚を火葬。悲しかった。3.11の前に車に変な音をたてました。防災無線の音は嫌。きっと大きな自然災害がまたくるでしょう。地層をみると、地球や自然は大きく長い歴史があって、人間は小さい存在です。3.11の数カ月前にイワシ(小さい稚魚)の大群が来たの。油断はこわいね。

読書が好きで、特に、「赤毛のアン」や「あしながおじさん」の“どんなに今日つらくと

も明日は楽しい” っていうテーマがいいわね。映画、文楽、フラメンコも好き。震災前、ハスの花、ブラックベリーの群生、はまぐりを見ました。今は時間を気にせず読書や勉強をしたいです。

私の母は、幼い息子を病気で亡くし、次の年に私が産まれました。母に抱きしめられなかった。自分も子供を抱きしめてやれないんです。酒乱の父でしたが、自分を可愛がってくれました。戦争体験のある父は、中国語で「助けて！」と叫ぶことがありました。母は傷ついていたことでしょう。両親を理解したい今。戦争は残酷ですね。戦後、雄勝峠を兵士が帰ってきたら、赤ん坊のおしめを干している妻の姿を見たそうです。自分の兄と結婚していたことがわかり、峠をそのままもどったそうよ。

私は4人の子供がいますが、解決しなければいけないことがあって子供と向き合いたし、あらためて子供を育てたいと思います。ゆっくり散歩したい。平凡にゆっくり生きたい。3年かかって、やっとゆっくりできます。

新築の家を平屋にした理由は、近所の人が何かあったらここへ避難しやすいし、50人規模で介護しやすい、すぐ救助できる、汚れを洗う、土のトイレが可能なように設計しました。

2) Bさん(50代)

2016年1月20日

3. 11の日は仕事が休みで家にいました。4日目に、ほとんど水没していた職場へ自転車を水の中をこいでいきました。職場での震災では、一人の責任者(上司)の判断が大きかったと思います。社員の待機や解散の判断により、命にかかわります。3. 11の夜中に奥さんを職場にボートで迎えに来たある男性が、「他にいませんか」と聞いたら、上司は「いません」と言ったそうです。他の人達も一緒にボートで避難できたかもしれません。

自分の自宅は、津波がこなくてそれほど被害がなかったので、親戚が避難してきました。私がスーパーの前に何時間も並んで確保したスパゲティや卵、チョコを断りもなく親戚が黙って食べて、ムッとしました。

時間と共に薄れる記憶。息子が生きていてだけで嬉しい。家族とけんかする日々だけど、亡くなった人達や子供を失くした人達よりましです。自分がいいことをすればいいことが返って来るという因果って本当でしょうか？亡くなった人達は、何か悪いことをしたの？子を失くして今も苦しい女性達は何か悪いことをしたの？私は、たまたま休みで、家族全員家に一緒にいただけで罪悪感があります。これって運がよかったの？運がいいって何？亡くなった人は運が悪いの？亡くなった人、親しい人を失くした人より自分はましなのでしょうか。しかしそれ自体が申しわけない。受験をひかえた高校生の子供の将来が見えない今、悩む日々。朝めざめて、死んだ方がましと思う罪悪感があります。また同じ様な大きな震災がきて同じような大きな災害で自分の命が終わってほしいとも思います。私が身代わりになればよかったんです。生かされたのに。生きたかった人がいるのに。震災で死ねばよかったと言うことは罰当たりだけど。神様が選ぶのでしょうか？

震災が起こるとは思ってもみなかった。また来たらどうしよう。母はチリ地震（1960年）を経験しているのに、もう伝説のようだと言います。私が経験した3.11の記憶もいつか薄れて伝説になるのかもしれませんが。片隅の記憶がひらめきになればいいですが。“あの時こうしておけばよかった”というのは結果論で、すべて結果論で物事が言われるのではないのでしょうか。

3) Cさん (50代)

2016年2月6日(土)

海辺の小学校にいた当時3年生だった息子を、津波で失いました。”山さ逃げっぺ!”と言った子供達がいたと証言した人がいます。いつも自主性を大切にとっているのに、先生の言うことをじっと守って聞いていた74人の子供達が波にのまれて犠牲になりました。10人の先生達も犠牲になりました。「先生の言う事をよく聞いて」という保護者や教師の言葉を守った子供達。先生を信じていた子供達です。先生の言う事を聞けと息子に言っていた自分は間違っていたのでしょうか。これから、あの場所で学ぶべきです。本当は校舎は震災遺構として残してほしいけれど、学ぶ場所にしてほしいです。

迎えに来てもらった子供達を見て、息子はうらやましかったでしょう。なんでお母さんは迎えにこないのかと思ったでしょう。迎えに行かなかったことを後悔しています。でも学校が安全だと信じ切っていたんです。学校にいれば安全と思って。

息子の死後、学習机の一番上の引き出しの奥から、花の種が入った袋を見つけました。小学一年生の時に育てたあさがおの種でした。当時、おばあさんや床屋さん等5人にあげていました。袋には「未来の自分へ」と書かれていました。野球が好きだったから、何かそんな夢でもあたったのかもしれませんが。大きくなったら植えて咲かせようと思ったのかもしれませんが。3.11の後、桜が咲いているのもわからず生きていました。子供との思い出を思い出すから大型ショッピングモールには行けません。同じ年齢の子供を見るのが辛い。平日の時間とか夕方行くけど、やっぱりいる子供達。ゲーム店や本屋に行った思い出など一緒に連れていった場所へ行けない。今度中学3年生になるはずでした。迎えに来てもらって助かった子供の中に、一緒に野球をした子供がいます。子供が悪いわけじゃないけど、会いたくないし、むこうで遊んでいる声があるのが耐えられません。

3.11の後、息子をどんなに探しても見つからないので遠く外洋へ流されたかと諦めていました。そんな時、出島の海で同級生の子供が見つかり、息子も見つかるかもしれないと期待しました。4月2日、やっと田んぼで見つかりました。ヘルメットをかぶり衣服も着ていて破れていなかったです。傷もない顔、きれいな体。ヘルメットの顎のバンドがくいこんで赤くなっていました。左の靴だけ脱げていました。溺死という死因です。ビニールに包まれて保冷車に乗せられました。今でもこの車をみると辛いです。当時、火葬場がないので、夫が子供の遺体を乗せて福島の火葬場まで行きました。3.11の前もそうですが、TVで手術や暴力のシーンが嫌で見られない自分が、安置所の凄い遺体を見て回って、身長何センチとかをたよりに安置所をあちこち探し回り、田んぼや海も往復しま

した。5割の子供達の体はきれいですが、山に打ち上げられたり、校舎で渦の中にいたり、神社に打ち上げられた子供達には傷があります。息子はゲーム仲間の友達と同じ日に見つかり、安置所でも、その女の子と並んでいました。

夫の父親が震災の前年に亡くなりました。高齢だし覚悟ができていたから諦めもつきませんが、まさか子供が死ぬなんて。朝まで元気で、このこたつの横で一緒にご飯を食べて話していたんですよ。学校が安全だって疑わず、先生もいるし山もあるし。バス通学だからバスで逃げればよかったのに。おじいさん、おばあさんが、バス停で孫のスクールバスを待っていて犠牲になったケースもあると聞きました。何かができなはず。津波への予見なしで、なぜ逃げずに50分も校庭にいるの？ 私は一生背負っていきます。初めから子供がいない夫婦ならわかりますが、子供を産んで育てたのに失くすなんて！

近くの中学校が2016年3月で閉校になりました。その閉校式でのあいさつに「児童の数が減少したから・・・」とありましたが、なんで減ったのか考えてほしい。入学する児童が津波で失くなったのですよ。なかったことになるのが怖い。子供はしたかったことがいっぱいあったにちがいありません。私の気持ちは何年経とうと同じです。むしろ辛くなっています。他の子供の成長について（中学、高校、大学へ進学、入学、卒業等）、職場での会話は聞かえないふりをしています。海に近い他の学校の子供達は助かっています。命を大切に行動すべきです。夫はあれから癌になり、「死んでもいい、息子のところへ行く」と言いました。

同じく子供を亡くしたご遺族との交流が支えです。あれから夫婦でけんかばかりで、TVを見て泣くと夫がまた泣くのかと怒るんです。冷静になれば。昔は夫との間で、子供がクッションになっていました。いじめのTVは許せません。一人でも子供が残っている遺族と全部失くした遺族のギャップを感じます。

田んぼを所有していますが、他の人にまかせました。継ぐ子供がいないのに守ってどうするのでしょうか。今は、畑や庭作りが好きで、花を育てて仏壇に供えたいです。

4) Dさん(60代)

2016年2月7日(日)

夫の姉が入院中でしたが、地震の後すぐ病院で亡くなりました。私の自宅に一週間ほどあづかりました。火葬場がないから。寒かったのでご遺体はそのまま大丈夫でした。津波で畳は濡れていましたが、何枚か乾いたものがあつたのでそれを敷いて、その上に寝せました。知人がどこかへ持って行く予定だった花を数本いただいて供えました。

地震の後、近所の人に誘われて自分は近くの建物に避難して、六日目に戻りました。1階は水がきましたが、2階は大丈夫で布団もあつた少し食べものがあつたので助かりました。町内会の各班ごとに支援物資を配布。パンやおにぎり。

自分のやっている床屋は波が来て、しばらく再開できませんでした。二週間後ぐらいに髪を切ってくださいと言う人がいたので、無事だったハサミを探し出し、普通のイスで切ってあげました。灯油のボイラー、ボンベのガスで水を沸かしました。反射式ストーブで

煮炊き。店を直し、ボランティアの髪も洗い、切ってあげました。8月ぐらいまで。ボランティアに店内のクーラーのきいた所で昼ごはんを食べてもらうスペースを提供しました。カツオ、サンマのさしみ、わかめ、シーチキンのあえもの、アイス、スイカ等をごちそうしました。5人から10人ぐらいのボランティアに、店内の津波の水だしと床を剥ぐ作業を手伝ってもらったから。身内が亡くなっていないから、ましです。大きな地震があったらとにかく逃げる。今でもちょっと揺れるとドアを開けます。台湾地震（2016年）に寄付したい。

3. 11後のしばらくの間は水をかぶったり壊れた物がいっぱい捨てられ、道が一人通れるぐらいでした。娘が冷蔵庫を送ってくれましたが、宅配の車が通れませんでした。親せきが水や灯油を持ってきてくれたし、二階の冷凍庫の物が、自然解凍して少し食べることができました。一人より二人だったからできたと思ひ、よくやったなあと言うより、よくできたなあと思ひます。これからは、年をとってきたから、年相応に生きていきたい。娘の結婚式でハワイに行ったので、またいつか行きたいです。貯金をしなくちゃね。テレビの旅番組を見て、行った気になります。膝に水がたまるので、一か月に一度注射してもらっています。床屋は立ち仕事だけど、歩数はあまりないんです。お客さんの聞き役かな、できることは。自分はあまり小説を読まないから、あまり考えたり話したりするのが苦手。自分よりひどい被害の人がいっぱいいます。自分よりひどい被害の人には、自分の話をしないで聞くだけ。遺体安置所になった体育館に勤務していた息子の悩みも聞きます。息子家族には、食べ物を、分けてあげました。東京の娘たちは来たくてもしばらく来れなかったです。交通手段もないから。一人暮らしの復興住宅の高齢者が孤独死しているのが気になります。高齢者はテレビばかり見ていたり、集まる場所も少ないです。病院にいて高齢者ばかりで話していて、病院が混んでいますね。同じ境遇で慰めあっているようです。

自分は通信制で床屋になりました。子供のころから髪を触るのが好きで、母が理容師をすすめたのです。夫と二人で自分の店を持つまで、2か所の店に勤務しました。お見合いで結婚して自分の店を持ったんです。無理せず、定年のない職なので、できるまで続けたい。常連の客も年を重ね、自分も年をとって、古い客は老いて亡くなっています。最近予約制の床屋が多くなって、遠方から来た仮設の人が予約がなくて困っていますが、この店は予約制じゃないのでタクシーが連れて来てくれるんです。帰りは夫が送っていきます。そんなお客様は、次回からは夫が送り迎え。床屋の帰りの途中、お客が買い物をしたいと言えばスーパーに寄ってあげる夫。この床屋は混むときは混むけど、誰も来ない日もあるんです。床屋に行きたい気分ってみんな同じなのかしら。43年も床屋をやっています。

私は紙やタオルで小物を作る手仕事が好きで夢中になっています。

5) Eさん(60代)

2016年2月21日

3. 11の日は看護師として勤務していました。小児科の診察室にいて、カルテを持つ

て廊下にいました。大きな地震で売店の物が飛んでいました。「はやく止んで！」と叫ぶ自分。小児科の診察室には父親と子供がいて診察台の下にもぐっていました。津波なんて、ここまでこないと思っていました。予想などまったくしていなくて、何も心の準備がなく対応できません。子供を迎えに行った同僚が、「大変なことになっている」と教えてくれました。3階へ入院患者を上げました。波が見え、車が流されるのを見ました。

電気が使えず、ラジオをつけました。自家発電機が壊れました。いろいろ自衛隊に助けてもらいました。近くの踏み切りがいつまでもカンカンとなっていたのを覚えています。毛布をかぶって一夜を過ごしました。次々とけが人が運ばれ、消毒だけで手当てをしました。泥だらけの人たちに、毛布と病衣を着せ、売店の食べ物でしのぎました。寒かったです。

次の日自宅へ向かいましたが、水が抜けていませんでした。火事も見ました。水の中を杖について大丈夫な場所を歩いている人の後をついていきました。知り合いがおにぎりを作ってくれ、腰まで水に浸って自宅へ。近くの高校に避難した母を迎えに行き、女の子二人と娘と他の家族と一緒に暮らし始めました。冷蔵庫に食べ物があり野菜も洗わず食べました。一つの鍋でいろんなものを作り、太陽光発電でお湯を沸かしました。孫が一月の赤ん坊だったので水が必要で、湯たんぽも必要でした。同じ町でも、地域で天と地の差があり、大丈夫だった家の人に風呂に入れてもらいました。

でも、ロウソクを灯して、夜はちょっとした宴会のようで、苦しいときは笑うんですね。バケツできれいな水を汲んできたり、みんなが力をあわせました。気持の切り替えをし、楽しいことを思い出すようにしました。非常時に心が開かれる経験もしました。普段は話さないようなことを話したり。

ガソリンやじゃがいもを分けてもらいました。一か月後職場へ復帰しました。病院が車で迎えに来てくれたり、バスで行ったり。地下室のカルテは水でぐしゃぐしゃ。パソコンだけでなく紙でも作って高い階にあげておけばよかったです。薬が切れてしまうおそれ（糖尿病など）がありますから、余分に薬があつたほうがいいですね。

自分の家族が一番大事で、守りたいと思います。地震の後は、何が起こるか予測がつかないからとにかく逃げる。せわしい毎日の今、人とのつながりと出会いについて考えます。家族を支えるので精いっぱいですが。

病気の人を病院にまかせっぱなしにせず、在宅ケアも選択肢に入れてほしいと願うこのごろです。医者は、医者自身の年に合わせて患者を診る気がします。高齢の医者は年寄りの気持ちで診るけど、若い医者は、まだまだ生きる自分の基準で患者を診ます。医者は看護師を同席させない今。パソコンの事務処理をする人と医者だけで診る。看護師が直接、患者の話を聞くことも大切じゃないの？患者の症状は、紙で伝えきれものじゃないんだから。

6) Fさん (30代)

2016年2月27日

3. 11は歯科医院で仕事で、4日目に自宅へ戻りました。病院では、水の中を歩いて水や食料の調達をしました。山を歩いて自宅へ帰って家族の無事を確認後、また職場へ行きました。全部で1週間ぐらい病院にいました。電気が戻ったら患者が来るかもしれないからと、カルテの準備をして仕事を優先しました。自宅では7人の親戚が避難してきて共同生活でしたが、避難所じゃないので水や食料がもらえませんでした。隣の人の井戸水や近くの湧き水で助かりました。ボランティアの人から物資をいただきました。反射式ストーブや湯たんぽが役に立ちました。自宅にいてもよかったのですが、職場の同僚がいい人達なので自主的に職場で生活させてもらいました。石巻の他の地域では、あまり震災の影響を受けていない場所もあり、いい生活をしていて、そのギャップに驚きました。「何だろう？ あっちは電気がついているのに、我が家はいつ？自分は着の身着のまま、髪もぼさぼさ」。せつない気持ちでした。同じ市内でも、どこにいるかで状況が違うんですね。阪神・淡路大震災（1995年）をテレビで見ていると実感があまりありませんでした。水が電気がないってどういうこと？とっていました。あたりまえの生活が大切なんですね。津波がきたら逃げるのが大事です。生き抜くことです。明日が確実にあるかわからないので、後悔しないように、誰かに伝えたいことがあったら伝えたいし、したいことはしたいです。

6歳の時、身近かなおじいさんが亡くなって、死について考え始めました。生きてくても生きれない人がいるんですね。高校の同級生が亡くなった時や叔母の死も影響しています。「いつどうなるかわからない」と叔母が言っていたのを思い出します。子供のいない叔母にとって自分が子供代わりでした。彼女の言葉を生かしたい。今は、私の支えは家族と知人です。

バイオリンの先生の母親が、いったん高台に逃げて助かっていたのに下へ再び戻って亡くなりました。5日前にしゃべったばかりなのに。「手料理を食べるといい音がでる、だから大切な人のためには、お料理を作ってね」と言われました。バイオリンやピアノで、こんな曲をひきたいというものがあって、レッスンは楽しいです。できない曲ができるようになる生きがいや喜びを感じ、幸せ探しですね。このごろは脱走する夢をみます。人見知りで幼稚園ではいじめられました。自分はみんなよりできないという自意識がありました。音楽は趣味で習いなさいと母が言っていました。私は一人で目立ちたくないし、小さい世界の自分で満足なんです。老人施設で弾いてみたいです。7. 8歳ぐらいの子供のころの夢がかなって、今はバレエ、ピアノ、バイオリンを習っています。3. 11の前から続けていた音楽が支えになり、音楽は自分の癒しであり、自己主張の方法です。生きなくちゃ！3. 11があったらから出会えた人、つながりがめぐり巡っていて、感謝しています。自分が生きていないといけない。自分のために、夢をかなえる人生を送りたいです。

7) & 8) Gさん (70代) と Hさん (60代) 二人一緒に

2016年2月28日

G さん：生まれも育ちも牡鹿半島の鮎川。お互いみんな知っている地域です。カッコつけてもしょうがない所。あの日は、消防の大きいサイレン、「6 mの津波がくる」とはっきり聞こえました。位牌3人分を持って、玄関の鍵を閉め、重たいサッシの窓も閉めて逃げました。

黒い湯煙のような波が見えて、まさか自宅が無くなるなんて思いませんでした。この町では、5組の夫婦が亡くなりました。寝たきりだったり、船を見にいった夫を待って道路に座っていたり、腰をぬかした妻を迎えに行ったり、2階に避難していたりして。郵便局で働く4人も命を落としました。私は、川を伝ってくる津波のイメージしかなかったです。山からの澤水や川の水でしのぎました。川に流されてくる車も見ました。すっかり姿を変えた自宅には、知らない車がつっこんでいました。廊下だけが、舞台みたいに残っていました。ガラクタだけの物置きも残っていました。3. 11の夜は、山のテントで夜を明かしました。それから役場での避難生活が始まりました。顔見知りの人たちがいて、毛布を借りたり、模造紙を巻いたりして寒さをしのぎ、狭い部屋がぎっしりでした。横に男性がいて、寝るのにはちょっと抵抗があり、女性のニーズがありますね。助かった家から必要な食料や物をもらったり、冷蔵庫にあった固い魚の肉や養鶏所の卵を食べました。トイレを消防署員が処理してくれました。親戚が持ってきた食べ物を自分だけ食べれないし、下着もいただきましたが、自分だけもらうのは気がひけました。

四十九日。霊が出ていくように窓を開けておきました。

高校の3年間だけ石巻市内に住みました。中学を卒業した私を、高校に入れないと母は言いましたが、親戚は「教育は大切だ」と説得してくれました。寮に入り共同生活で楽しかったです。おにぎりを作ってもらって、みんなでひばりの海岸へ遊びにいった思い出があります。みんな優しかったです。私の町は若者が出ていく漁業の町です。被災後、私の息子が迎えにきたけど、みんなが私を引き止めました。震災前の2011年1月、私は居眠り運転で、山際の崖に落ちて、桜の苗木に引っかかって助かりました。廃車。

夫はずっと前に海に転落して死亡し、69歳で未亡人になり、認知症の母を抱えています。

一人っ子だから、人と話すのが好きで、性格が明るいと思います。船乗りの父は優しかったのですが、母は厳しく不器用な自分にきつく当たりました。町の人は、みんな親切で優しく、いたわってくれました。宝くじがあたったらどうしようなんて考える、このごろ、オレオレ詐欺の電話の相手と長時間話したり、保険勧誘の人にもおしゃべりして付き合うの。家が流されて、これ以上悪いことはなくて、これ以下はないから、毎日を忙しく過ごしています。ダンベル、川柳、カラオケ、ラジオ体操。仮設住宅での催し物に出ています。

今は娘と同居です。けんかもします。私は、あとづさりできない性格なのね。2016年3月に新居ができ、一人暮らしへ。土に触れる草花のある暮らしが楽しみ。優しさを感じる心が大切ではないでしょうか。

Hさん：命があれば何とかあります。近くのスーパーで50人以上も亡くなりました。津波がくるとは思わないものね。大きな揺れの後、すぐに高台にある幼稚園に、孫を迎えに行きました。雪が降っていたので運転したくないと思っていたら、「下へ戻ったらだめ」と他人の言うことを聞いて幼稚園に留まりました。これがよかったのです。サイレンはよく聞き取れず、「何を言ってるの？どこへ？どんなこと？」って思いました。親が迎えに来れない子供たちは別の部屋にいました。

すべて流された自宅跡には、氏神だけが残っていました。桜が咲く4月18日に、内陸の実家へ行き、40年ぶりに兄弟と共同生活をしました。お互いに気つかうかもしれないので、実家近くで家を借りました。はじめです。でも実家は大切だなあと実感しましたし、身内に助けられました。まさか、こうして実家の世話になるとは思ってもみなかったです。今は、楽しいことを探し、ささいなことも幸せ。振り返って、よくここまでできたと自分をほめて、深く考えないようにしています。余裕がないし、今しなくてはいけないことが、たくさん。家を新築する時、息子夫婦は津波がきた同じ場所は嫌だと言いましたが、夫は頑固に同じ場所に立て直すといいました。

3.11があったけれど、結果的に命が助かったのだからよかったです。被災者と呼ばれるのがいやですし、みじめな気持ちになります。あわれな気分。自分は幸せです。人と比べてもしょうがないんです。動くと何かが変わります。みんなの話を聞いて、みんなと一緒に生きています。「足るを知る」。上を見てもしょうがない。女性は強い。現在は小学3年生の孫の送り迎えと、6人の食事作り。2世帯住宅で台所が別。食が大切ですね。3.11は春に向かっていく3月だったからよかったと思います。太陽と暮らす生活でした。冷凍庫の魚を食べたり、澤水で米を洗ったり。差し入れのリュックの食べ物をかくれて孫と、そっと食べました。雨水には放射能があるかもしれないと心配しました。

私は4人兄弟の末っ子。小さいころから、他人に逆らわない、反抗しない。私のかしこい生き方上手は、これ。人生は60点でいい。自分の好きなように辺りは回っている気がします。

9) Iさん 50代

2016年1月31日

3.11は息子の中学の卒業式でした。地震の後、外出先から自宅のある辺りへ戻ると、どよんとした空気が全体に流れていました。神社に向かって歩いている時に波が見え、ああダメだと思い、すぐ自宅の2階へ上がり、それから屋根へ。一階の踊り場辺りで波がとまりました。死にたくない！ プロパンガスの匂いがして、火がついたら怖いと思いました。息子は、近所の人に逃げろと言いながら小学校へ避難して行ったようです。次の朝、息子が迎えに来ました。夫と連絡が取れず、10日目ぐらいに、彼の職場へ、川の上の橋を歩いて渡って会いに行きました。夫は、私も子供も亡くなったと思っていたそうです。

不変のものはないんです。普通の生活が続くと思っていたけど。自分より大変な人がいます。家はすべてダメになりましたが、物だから考えないようにして固執していません。前を向いて世のために努力したいです。人は完璧ではなく、どんな人にも良いところ悪いところがあります。私は、人がさみしかったり悲しかったりするのを見るのがつらいんです。声をかけずにいられないし、ほっとけないんです。高校のクラスで若い教員が生徒から、からかわれていた時、クラスメイトに「やめて」と言い、会社の上司のパワハラにも「やめて」と言いました。人に気を使うので、時々疲れますけど。

2011年から3年ほど仙台に住み、夫は車で石巻に通勤。後ろめたい気持ちがあって、手足を伸ばして寝れませんでした。笑顔は強くて、笑顔は人から人へ、うつるんですね。「幸せは自分の心がきめる」、そんな人になりたいです。この町に住む外国人には“石巻のおせっかいママ”と呼ばれているんです。41歳で、ラジオとテレビで英語を始めました。大学へ行ってないけど。英語は人をつなげるし、今は生きがいです。石巻に住む外国籍の友達といるのが楽しい。2016年4月から小学校で英語の補助教員になります。小学校英語指導者の資格も取りました。小学校で読み聞かせもしていて、一步一步が道になって、全部つながっているんですね。9年目の結婚記念日が、息子の誕生日。義父母には、夫を産んでくれてありがとうと言いたいです。

子供のころ、人形遊びやままごとが好きじゃなかったの。ぬいぐるみを抱いて遊んでいるのが好きでした。母親が、服を裁縫して販売していていつも忙しかったので、一人の時間が多くてさみしかったのかも知れません。震災の後、ノミの市に行った時、ペンギンのぬいぐるみと目があって、「自分を連れて帰って」といっているようで、すぐに購入しました。50円。自分はずっと、そのペンギンとおしゃべりをしています。車の助手席にも乗せていると「気をつけて運転して」と見守ってくれています。知人が3人の子供を津波で亡くし、ほっとおけないと思い、毎日、メールで連絡を取りあいました。この知人が、子供を対象に支援活動を始めたので、私もボランティアとして手伝うことにしました。

息子は中学生のころ、震災で亡くなったアメリカ人女性テイラー・アンダーソンさんのご指導を受け、英語スピーチコンテストで二度目も優勝しました。それはテレビの全国放送で流れました。テイラーさんのご両親が設立したテイラー・アンダーソン記念基金の招きで、息子はニューヨークに行くことができました。運動会の昼食時間に、校庭での我が家の昼食にテイラーさんもご一緒してもらったことが思い出されます。亡くなったテイラーさんが使っていたタンスが、知人の紹介で我が家に今あります。タンスを引き取った時、香水の香りがしました。テイラーさんからいつも励ましてもらっていて、自信をもって歩きなさいねと言われていたようです。

10) Jさん (60代)

2016年4月9日

3. 11の被災で飼い主と離ればなれになった犬がたくさん、ペットショップに持ち込まれました。そのペットショップで働く知人が、犬二匹を我が家へ連れてきました。我が

家といっても、家はすべて流され、アパートに住んでいたのですけれど。知り合いは、私の返事も聞かず、その犬二匹をおいて帰っていきました。私ははじめどうしようかと悩みましたが、そのままずっと自宅で飼っています。今では、その犬たちは私の生きがいです。

11) Kさん (30代) 2016年2月18日、5月11日、12日、6月2日

その日は海辺の町の保育所で働いていました。お昼寝の時間でした。3時に子供達を起こす予定でした。長く揺れている間、早く止まって！と胸の中で叫んでいました。先生たちは誰も慌てず落ち着いていました。「大丈夫、そのまま、待っててね。」と子供達に言いました。長い揺れでした。建物の窓ガラスは壊れて床に落ちていました。子供達は素直に言うことを聞き、泣く子もいなかったです。子供達との信頼関係があったと思います。大人だけだったら、逃げなかったかも。子供達にジャンパーを着せ、靴を履かせ庭に集合しました。冷静に整列したのです。一列です。輪を乱さず、パニックにもなっていません。

迎えに来た保護者に50人ほど引き渡し、他の子供達50人ほどを高台へ避難させました。地元採用の先生が多かったので、この大きな地震の後は津波がくると言い、またいつもの避難訓練先ではなく、山へ向かう違う道を知っていて、そこを逃げて逃げました。地元の人しか知らないルートです。長い石段、坂道。街並みが津波の濁流に飲み込まれ、建物が壊れていく音が聞こえました。「うそでしょ?」。保育所はすべて全壊、跡形もありません。あのまま庭にいたら?逃げるのが遅かったら?いつもの避難訓練先へ行っていたら、死んでいました。とっさの判断です。チリ地震があつて、津波がここまできたという印があつた所は完全に飲み込まれていました。油断があつたかもしれませぬ。ここまではこないだろうと。子供がいたから大人も逃げたのです。子供達に助けられたと思います。迎えに来た保護者にありがとうと言われましたが、こちらこそありがとうございますと言いました。

避難した高台の体育館はガラスが割れていて入れず、運動場の倉庫に身を寄せました。この運動場には1,000人ぐらい避難してきていたのではないのでしょうか。食料がいくらあつても、不平等になるので分けてもらえませんでした。子供たちは、暗くて汚いトイレに行きたがらず、おもらしをしました。何も持たずに逃げたので、新聞紙や袋でズボンを作って、履かせました。

大人だけだったら逃げなかったかも。子供達の命が助かって、使命が果たせた気がする。道が完全に寸断されました。自宅に私も5日間帰れませんでした。義理の母親が、私の当時2歳の息子の世話をしてくれていました。心配でした。生死の境の日々で、誰に会っても涙が出ました。命があつただけでも嬉しい。3日目に道なき道を方向だけを頼りに物資を探しに行きました。自衛隊はまず道を作るんですね。

忘れない。反省を今後に生かしたいし、なかったことになるのが怖い。震災後、しばらくこの経験を話せなかったです。生活が精一杯で、思い出したくなかったのです。思い出したくないことを忘れようとする。今だから、ぼつりぼつり思い出してこうしてしゃべ

れます。いろんな経験を生かして、訓練は大切です。想定はきりが無いけれど、応用力を備え、臨機応変な行動が大切ではないでしょうか。身内を亡くした人は泣き続けていて、泣いても亡くなった人は喜ばないという心の切り替えは、自分ではできるでしょうか。ご遺族になんと声をかけていいのか。ふれていいのか、相手はどう思うか心配です。

今の私にとって、家族が一番で優先します。14年間も保育士をしていたけれど、忙しく、朝も早くて一度の人生これでいいのかなあと、小さい息子との一緒の時間を大切にしたい。保育士は夢だったのですが、震災後、退職しました。仕事をしていてはできないことを今、しています。車や物を失ったけれどなんとかなります。明るく生きよう。落ち込むけど。楽しく無理せず、助かった命なので。

12) Lさん(50代)

2016年3月25日

今を生きるのが精一杯。日々、考えてもしょうがないんです。一日一日を大切に精一杯、しっかり生きることではないでしょうか。とらわれないで。1人ひとりの人生なので、それぞれの終わり方があると思います。震災で犠牲になった人達に“かわいそう”は、上から目線ではありませんか？魂としては終わりではないですから。そう信じたい。特別視しない方がいいのではないのでしょうか？命がこの世から消えるのは痛ましいことですが、いつかは離れなくてはいけないんです。必ずみんな迎える死。長いか短いかの違い。ご遺族の方々のことを考えると口に出せないけれど、あえて言葉にすれば、人生は30cmの人間のものさしで測れないと思います。命の尊さを言うなら、命について私はわかりませんが、あの日、逝ってしまった人達は、今、だらだら生きている人より尊い気がします。かわいそうと思うのは失礼。

人間は自然の一部。津波に負けまいとして防潮堤を作っているけれど、自然を測ろうとしない方がいいと思います。人間v s 自然？ わからないものを楽しんだ方がいいのではありませんか。人は忘れるんです。時間が解決してくれるから、時間にまかせて忘れてもいいと思います。5年たてば忘れてもいいのでは？ 私にとっては謙虚に、ちっぽけな自分を生きるのが精一杯できることです。

健康のため、体操、ダンス エアロビクスをしています。とても楽しいんです。通っているジムで、腰にくびれのない太った中年の女性達がタイトなタイツやビキニを着て正々堂々とベリーダンスを踊っている姿、いいなあと感動します。一歩、何かを乗り越えているようで。振り返ったときにいい人生だったと思いたい。現在、私は福祉の仕事をしていて、仕事の内容は難しく大変なんだけど、スタッフの間で笑いがたえないの。明るくてよい職場。震災後、苦しい生活を余儀なくされている人達に、感情を入れず客観視してアドバイスしているスタッフです。それぞれの、その人の生き方を尊重することって大事ですよ。

3. 11で亡くなった人達も、その人の人生を生きたんです。行方不明の人を、探さな

いこともいいのではないのでしょうか。ちゃんと空へ行ったら信じています。困っている人を助けたい支援団体がたくさん来たけど、自己満足で支援したいだけのような気がします。被災者の自立を促していますか？どれだけやったら助けられるの？物質だけの支援って、人を幸せにするの？物があっても不幸な人がいます。心を見ることって必要ですよ。金持ちもむなしい。病んでいます。まず自分が幸せになり身近な人に分けた方がいいです。幸せのオーラを周りに振りまくのが肝心。人間の測りや基準でなくて。

13) Mさん(70代)

2016年5月2日

2011年5月8日から、菓子店を再開しました。家が残って布団があって寝られたから幸せ。3.11に義理の弟が津波で電柱につかまっていたんだけど、泳いで低体温で死亡しました。夫は毎日、安置所を探しました。ジャンパーでわかって、4月19日に軒下で見つかりました。3.11の日は、自分は仙台の病院に圧迫骨折で入院中でした。義理の弟が朝に電話をくれて四十九日の法事に行けなくてごめんね、さみしかったというのが最後。きちんと送れてよかった。入院中で、生かされたから幸せ、助けられたのね。

私は4月23日に退院。元気のもとはお客さんと話すこと。笑って話すこと。1人でいたり、こもってはいはだめだと思います。生かされたんです。泣いて発散した方がいい。がまんしている知人に泣けと言ったの。私は生まれつき明るくて、悩まない性格です。若い時は悩んで寝れない夜もあったけれど、悩んでもしかたなく次の日悩めばいいと思うようになりました。くよくよするけど、跳ね返して気持ちを切り替えるの。入退院を繰り返したので、病気の体験談をたくさん言えますよ。命あって生き残った女性達は強いね。

早く店を再開して、周りに悪いなあと思いました。周りがまだ再開していないから。店に水が入らなかったので早く再開できました。再開した私に、知人は最初は「よかった」と言ってくれたけど、でも内心嫉妬しているでしょう。

私は23歳で床屋を開きました。手に職をつけて自分の収入を得るためです。未亡人になっても子供を育てられるようにと母が助言してくれたからです。26歳で結婚。27歳で第一子。29歳で第二子の誕生の時、夫の実家が菓子店を開きました。4人の子供を持ちました。夫の友達が菓子を買ってくれたので、友達って大切だなあと思いました。クリスマスケーキなど買ってもらい助けられました。父は満州で、36歳で結核で亡くなり、私の母親は32歳で未亡人となりました。その時、自分は一歳半でした。4人の子供を母は一人で育ててくれました。自分が一番下です。母は9人兄弟の長女で、感情が激しく喜怒哀楽がはっきりしていました。母は、焼きそば屋や茶巾屋で生計をたてました。母は再婚もしませんでした。私は母を困らせたくないと思っていました。

私は22歳の時、呉服屋で半年働いていましたが、上司はいつもぶすぶす笑わない人でした。その人に、「いつもにやにやしてバカ！」と言われたので、「何が面白くないの？ぶすぶすして！」とけんかになりましたが、ずっとその後、親友になったんです。

仲人を頼まれた時があって、太っていたので着物を着ると、お酒を客に注げないので、

ダイエットを決心して、70キロから11月の結婚式までかなりやせたことがあります。一万歩を歩き、掃除のバイト（一日2時間）のために自転車で通勤しました。

50歳で夫が倒れたとき、菓子屋をやめて、女性向けの顔そりのお店と床屋を再開しようかと思いました。化粧やマッサージもして。こつこつためて開いた、この菓子屋は借金。大型チェーンや付近にケーキ屋ができて売り上げが下がりました。

震災時、700個のケーキを皆さんに差し上げました。難しい客には、サービスすると仲良くなるんです。子供の時から笑わせるのが好きです。人を嫌いになるのは簡単だけど、嫌いな感情を維持するのは大変だから、最初から嫌いにならない方がいいよ。夫に仕事以外の人生がある余生を味わってほしい。これまで二人で出かけたこともないの。自分は色鉛筆で、絵を描きたいです。いつ死んでもいいの、怖くない。生かされた命だから。謙虚に何も知らないふりをしてると、みんなが教えてくれます。知ってるふりをすると教えてくれません。夫の兄弟、親戚の悪口はいわない。夫が苦しくなるから。

14) Nさん (40代)

2016年5月6日

いただいた支援は恩返ししたいです。次につながるの。家もあるし夫の仕事もあって生活が大丈夫だったので、いろんな支援を記録し恩返しするよう努めました。当時、生きていることにみんな精一杯で、いただきばなっしでした。みんな余裕がなくてお返しができないので、自分にしかできないと思いました。英国ウイリアム王子が石巻に来た時も、できるだけのことをしました。

母の影響が大きいです。母はおいしいものを分けたり、自分が食べなくともあげたりしました。母の実家は旧家です。私の両親は商売をしていました。初売りは忙しいので、いつも実家に預けられていました。自分も売り子として手伝っていました。その店での経験から人間関係を学んだと思います。忙しい母が、きんぴらごぼうをたくさん作ってお客に持たせたりしたことを記憶しています。自分は小学3年生の時から料理をしていました。母は強運でいつも大吉をひく人でした。

2011年2月に両親は店を閉めました。母が末期がんで3.11は入院中で、余命わずかと言われ、弟たちが来ていました。家にいる父を心配していました。父は家の中で津波で犠牲になり、3月12日に確認しました。母にそう告げると、母は次の日の13日に亡くなりました。主治医がいろいろ説明してくれ、神の存在を意識しました。自衛隊が雪中、父を探してくれたし缶詰の箱を運んでいる姿を見て、神はいると確信しました。停電で信号が機能していない当時、頑張った警察官や自衛隊に感謝です。

神が、人や出来事を前もって配置してくれている気がします。1人に5000万円をかけて育てた医者や、いくら負傷者がいても被害が大きい地域に行かせられないという大きな病院の医者の言葉にショックでした。でも衛生状態も悪し、泥棒がいたりして治安が悪いので後で納得しました。水もなかったし。弟二人と夫がいてくれてよかったです。今も生きることに必死ですが、自分は恵まれています。友人は、下半身だけの夫のご遺体と

対面しました。

両親そして自分という順番で死がきます。自分は子供がいなくて、子供が亡くなったわけじゃないんです。イギリスに半年、夫が単身で行っていた時、生活にはりがありませんでした。21年の夫婦生活ですが、このごろ、食器や押し入れの整理をして、夫がすぐわかるようにリストアップしています。

相手を思いやることは大切です。外からやって来る人達と縁ができました。自分の性格や人格を高めておくことですね。続けていくと縁が深まります。出来事の流れが水のように見えて、その流れを見きわめたいです。流れを作りたいです。必要な人が役割をもって現れ、道を作ってくれ、そして去って行くんです。

15) Oさん (フランス人、50代)

2016年5月21日

近所の人々が助けてくれました。外国人の自分を、石巻の人達が、いろいろ助けてくれたのです。1人ではフランスに帰りたくなかった。一日一日を精一杯生きること。昨年、家を建てフランスの家族も遊びにきてくれて嬉しかった。

16) Pさん (20代)

2016年5月23日

清掃の仕事をしています。3.11に起きたことを考えてもしかたありません。浜辺の家は流されました。どうにかなります。くよくよしない楽道家なのです。小学校2年の息子を守るのは自分だけです。家は流されましたが、家族が無事でよかったです。良いところを探すよう心を切り替えています。震災前の仕事は解雇されましたが、その分、子供と過ごす時間が増えました。避難所から狭い仮設住宅へ移ったり、どこへ行っても順応しました。こんなもんだろうと。今は、復興住宅に住み、こうして新しい仕事も見つかりよかったです。通勤時間も短い。この仕事をなんとか維持したいです。あんまりがんばらないようにしています。めりはりをつけて暮らしています。生活にポイントをつけて。なるべく物事のいい所をみるようにしています。

両親は、海を見ながら生活したいと言うので、また浜辺に家を建てました。近所の古い知り合いがいる所がいいらしいです。私は息子との二人暮らしを大切にしています。息子は本を読むのが好きなんです。

17) Qさん (60代)

2016年6月1日

川岸で八百屋をしていました。津波がくるというので、店先の野菜や果物を中に入れて鍵を閉めて逃げました。うちの商品の中で、袋に入っていた野菜や果物が波で流されてきて、それを拾って食べたところ、近所の人々が後で言っていました。3日目に店に入ってみると、ポンカンだけがぷくぷく浮いていたのを覚えています。小さい店なのに、津波が渦を巻いた跡が残っていました。

親戚の家に身を寄せようとしたのですが、気をつかうと思ったので避難所へ行きました。

半年をそこで過ごしました。店をやっていたせいか、人と話すのが好きで、みんなで掃除したり食事の用意をするのは苦になりませんでした。人によっては、誰かに見られているとか、共同生活が苦手だと言いますが、自分は近所の顔みしりが多かったせいか、まったく気になりませんでした。若いころは人見知りで人付き合いが苦手で、しゃべるのが好きじゃなかったです。

若いころ、裁縫や編み物を習って、手仕事が好きで家にいました。八百屋に嫁いで、だんだん人に慣れてきて、35年。嫁ぎ先では夫の両親と同居。八百屋の仕事は忙しく、袋に野菜や果物を詰めたり並べたりしました。手が荒れて、母が手を撫でてくれたのを思い出します。

猫がいるので早く避難所から出て仮設住宅に住もうと抽選に応募したけれど、気にいった仮設が見つかりませんでした。3年半、仮設にいました。新しく家を建てて仮設を出ていく人をみかけて「ああ、出ていくんだなあ」と思っていました。公営住宅に住もうと思ったけれど、息子夫婦と一緒に家を建ててくれました。震災の一年前に義母が亡くなり、7回忌までには家を新築して、お世話になった人と呼んでお礼を言いたかったんです。震災前から、新築したいと願っていましたが、夫は金がないと言って賛成しませんでした。子供達3人と家族会議をして、息子の家族と一緒に住む家を建てることができ嬉しい。でも他の人がまだ仮設にいるので、あまり大きな声で喜べないんです。仮設から出る時、少しずつ物を運んで、引っ越しするときは黙って出てきました。元の土地の辺りには、新築した家が建ち始めているけれど、みんな家にこもっています。早く町内会ができて、近所の人たちと会いたい。

大きなスーパーは一人で清算をして、誰とも話さず買い物ができるけれど、この仮設商店街の八百屋のように、店の人と話をしながら買い物するのが好きなお客さんもいるんです。大型スーパーは便利だけれど、こういう小さな店が近所にあってもいいんじゃない？大きなスーパーだと色々なものが一か所で揃っていいけどね。肉屋とか魚屋とか近所がないから、こんな八百屋だけあっても客にとっては少し不便かもしれないけど。この仮設商店街は10月で終わり。私たちも、もう八百屋を閉めるつもり。前の場所で八百屋を再開しても、はたして以前のように近所の人買いに来てくれる保証はないから。でも、私は楽道家なの。

18) Rさん (60代)

2016年6月1日

避難所で、自分の生活空間の仕切りに、私の手作りパッチワークをかけていたら、アメリカ人の支援者がそれに目を留め、知り合いになりました。津波は辛いことだけど、いろんな人に出会い交流が生まれました。

19) Sさん (60代)

2016年6月4日

地震が起きた時、家にいました。夫を待っていて外に出ていました。道路を走って来る

男子高校生がいて、「逃げろ。」と叫んでいました。彼の後ろに黒い津波が見えました。その高校生の後を、一緒に逃げて、歩道橋に上がりました。歩道橋の下は渋滞の車。流される車。歩道橋の上で、「ポケットに手を入れて。」と若い男性が言ったので、素直に自分のポケットに手を入れました。波がひけた時、歩道橋から降りようとしたのですが、がれきでいっぱい降りられません。男性たちが手伝ってくれて降りました。近くの運送会社に避難しました。親切な運転手さん達に助けられました。運送会社のトラックに知らない人と入れてもらいました。ガソリンがあって、バンバン焚いてくれましたので温かかったです。夜中に木の上から「助けて。」の声が聞こえて、車の上に乗って助ける運転手達。

その運送会社の近くに井戸水があって、よかったです。魚を運んでいたトラックの積み荷や被災したスーパーから物が山際に流れ着き、それを拾ってドラム缶で炊き出しをしました。私は以前、下宿屋をやっていたので、料理を作るのは好きで、たくさんの食事を作るのに慣れていて平気でした。避難していた人たちの数十人分です。これまでの体験が生かされました。ご飯が足りない時はおかゆにしたり、リンゴは日持ちするジャムにしたり。知恵を使いました。サランラップを皿にしいて、なるべく洗わないように。

あの頃は甘いものがほしかったです。でもトラックの積み荷からもらった高価な魚（キチジ）なんかも食べたの。きれいな井戸水のために、これから山を大切にしたい。港近くの魚の冷凍庫で働いていた夫は、電気が止まってドアが開かず、外へ出れなくて帰ってこられないのかもしれない、もしかすると中で死んだかもと泣いていました。きっと荷物の下敷きが、凍死したかもしれないとあきらめていました。後でわかったのは、地震の後、すぐに山へ逃げたらしいです。数日後、夫は私を探しに来たそうです。しばらく食べていなかったのですが、知り合いにお握りをもらったそうです。

家に片づけに入って、立てていた家族写真の位置が違っていました。夫が来ていたんだとわかりました。10日後に仙台の娘の所へ。仙台は普通の生活でびっくり。パーキンソン病で、薬局は何件も回りました。今でも地震が怖い。津波が襲った家を解体し、家を新築しました。車も流されたので車も買いました。二人の娘を私立大へ入れたので貯蓄もなく、経済的に苦しい。2014年に孫が産まれたのですが、新しい命の力は大きい存在です。

子供が小さい時、町内会にはお世話になったから、2015年から町内会長を引き受けました。3.11で人生が大きく変わりました。

20) Tさん (20代)

2016年6月8日、14日

あの日は、中学3年生で卒業式の日でした。私は吹奏楽部でサクソフをふいていましたので、定期演奏会が三日後にあるので、「また会えるよ。」ってみんなと別れました。家にいたら地震でした。普段は船に乗っている父が、たまたま家にいて「絶対に津波がくる、逃げるぞ。」と言ったので一緒に逃げました。ある建物の2階に逃げました。そこには20人ぐらいいました。備蓄食料がありアルファ米があって分けてもらいました。怖くて窓

から外が見れなかったのですが、水位が上がってきたのはわかりました。パニックの自分はずっと泣いていました。今も地震が怖い。ちょっと揺れると動悸がします。

小学6年の妹と連絡がとれず心配でした。学校だから大丈夫と信じようと思いました。後で妹に聞くと、クラスメイトがいたので安心だったそうです。逆に、父と姉は泳げるから大丈夫だけど、母は泳げないので心配だったと言っていました。翌日、ビニール袋を足にまいて水の中を歩き、自宅へ行きました。自宅は一階を津波が襲い、2階での生活が始まりました。水に浸かっていないお菓子を食べたり、近所のかまぼこ屋さんがかまぼこを配ってくれました。

4日目に避難所に食べ物を取りに行くと、バナナやかまぼこをもらえました。避難所で、水をペットボトルにもらって帰ろうとしたら妹が、「水だけもらって帰るのか!」と年配の男性に罵声を浴びせられました。「学校でそう教えられたのか! 避難所にいる人の気持ちがわかるのか!」と。しかしその帰り道、知らない女性に2個おにぎりをもらいほっとしました。いい人もいるんだと。助け合いばかり報道されますが、そればかりではないんですね。表向きはきれいことばかり。高校の合格発表がまだで、5月から高校に行きました。北海道から親戚が来てくれ、家の中をきれいにしてくれ助かりました。

自分はずっと引込みじあんんで中学1年から高校1年までネガティブ思考でした。高校1年の時、ネガティブ思考を全面的に出しすぎ、暗く悲観的で、クラスで孤立。みんな一歩引いていました。しかし高校2年で「このままではいけない、変わろう。」と決心し、形から入って長い髪を切りました。部活だけでなく大学に入っているいろんなことをしてみようと思いました。いろんな人に会って、いろんなことに参加してみよう。

幼稚園の時、外国の先生の英語の時間が楽しく、英語を使って仕事がしたいと思い始めました。外国の人と話をしたり、英語で日本文化を伝えたいです。最近、武道を始めました。社会人になったらできないこと、大学生だからできることを、この4年間でできるだけやりたいです。次はない気がします。震災で犠牲になったアメリカ人女性のご両親が設立したテイラー・アンダーソン記念基金で、昨年、アメリカへ行くこともできました。被災について伝えることができました。アメリカの大学の講義に出席したり、アメリカの学生と話したり楽しかったです。むこうの学生が積極的に講義で発言していて、日本人があまり自己主張しないことがあらためてわかりました。それから、娘を亡くしたアンダーソン夫妻が、現地で明るく私たちが歓迎してくれたことに対して、その強さに感動し泣いてしまいました。ありがたいです。自分も、3.11があったから出会えたこと、知ったことがたくさんあります。当たり前のことが、そうじゃないことに気がつきました。普通のことが、ありがたく、周りの人や環境に感謝の気持ちです。風呂もなく、食料も電気も水もなかったのです。ずっと2階で生活していて、やっと1階でご飯が食べられた時、嬉しかったです。少しずつもどってくる生活。

今は市民楽団に入り、オーボエを担当しています。地元の大学に入った理由は、もともと地元志向があったからです。そして新しい学部に入り、前例がないので、自分たちで伝

続が作れると思ったからです。良くも悪くも、一度決めたらぶれない性格です。心身ともに自分を優先させています。たくさんの方が傷を抱えているでしょうが、生きていればなんとかなります。辛くとも命があれば必ずなんとかなります。物事は、良くなるんです。上がるだけです。自分は恵まれた存在であることを実感します。今年もアメリカへ行くので、石巻の歴史や日本の文化を伝えてきたいです。

21) Uさん (50代)

2016年6月12日

震災前は、兄が経営していた花屋を、30年以上手伝っていました。私の実家の花屋です。津波で流されました。3.11の前には、もう花屋をやめようと思っていました。息子が結婚するので、孫の子守りをしたいのでこれを機にやめようかと考えていました。長面から30年以上、通っていました。3.11の後、親の仕事をつなげたいと思うようになりました。兄は、もう別の仕事につきました。商売は大変だとわかっていましたけど、やってみようと思いました。夫は仕事をやめ、一緒に花屋を再開しました。夫はもともと花が好きで庭を作っていました。建てて15年たった家も庭もすべて流されました。ローンも残っていましたから、新しく土地をもとめて家を新築して、二重ローンです。

2015年に夫が少し体をこわし、今度は息子が仕事をやめ配達を手伝うようになりました。健康が一番ですね。3.11で亡くなった人に比べれば、自分は家族がみんな無事なのでましです。3.11の当日は、中学校の卒業式のために、檀上の花を活けていました。地震の後、先生たちの行動はすごかった。「集めろ！」と。すぐに生徒たちを集めたり、帰った子供達を探しに自転車で行ったり。それに比べて、ある小学校はでは、たくさんの子供たちが犠牲になりました。判断できない先生方や新しい先生達だったのでしょいか。その日は学校で過ごしました。温かいおにぎりが届きました。その日に飯野川の婦人部から。次の日、10人ぐらいで自宅跡へ。息子と会えました。知り合いの母親が見つからないので探しにいく息子。私の姉が被害の少ない町にいて、そこにお世話になることができたのに、いっさい彼女のことを考えませんでした。なぜでしょう。今でも不思議です。

無事だった夫と会えました。新しい土地は、夫の姉二人が購入してくれました。長男である夫の姉たちは実家がなくなるのはつらいので早く土地をといて。買ってくれた姉たちにお返すために2011年7月に店をオープン。親を見てきて商売は大変だとわかっていたけれど、自分もやりたいと思ったのです。3.11を機にやらなくちゃ！と実家をつなげたい。なくなるのはつらい。花を通じて人とつながりました。昔のお客さんが来てくれて、やる気ができました。できるんだと自信がわきました。息子もやりたいと言ってくれ、息子ともいろいろ話し、若いアイデアをもらいます。インターネット販売とか。自分は若いころ、息子をおんぶして花を売っていました。息子に同じ苦勞をさせたくないし、つらい思いをさせたので孫の世話をしたいし、退き際かもと考えていたんです。しかし私にとって、花屋は人生そのもので、自信がありました。できるんじゃないかと。夢中で過ごしたこの5年間。家がなくなって悲しい一年。あれがあった、これがあったと思ひ出します。

でも、下を向いていられない、支払いもあるし、病気になっていられないんです。2年目からは「ある物で」と気持ちを切り替えました。両親の商売を見てきて、売れない日もあり、子供のころから強く生きて、我慢しなければと教えられてきました。夫の父も早くなくなり長男として強く生きてきました。

自分は夫と、花が売れない時、お墓参りに行って両方の両親に頼むんです。すると助けてくれ、お客が来るんですよ。3. 11の前は、あまり親のことを考えなかったのにね。あれから考え始めました。

流れにまかせて、前向きに、自分でできることをみつけるんです。女は強いです。前向きに生きていればいっぱい人は助けてくれます。前の店に来ていた顔見知りのお客さんがたくさんいて、まさかその人達が住んでいる場所に、この新しい店を開くなんて、そんなこととは知らずに。不思議です。まさかその土地に移って来るとは。導きでしょうか。始めは不安だったけれど、こうして、顔見知りになっていたお客さんの近所に住むことになり、つながっているんだと実感しました。そのお客さんたちが、みんなに声をかけて、店に来てくれるんですよ。後味の悪い人間関係や付き合いはしてこなかったもので、よかったです。物事をいい方に、いい方にと考えるようにしています。家族の協力は本当にありがたいです。

22) Vさん(50代)

2016年6月19日

3. 11の時、半島と島の間の海が割れて、海の底が見えたらしい。写真で見ました。両方に波が引いて一本の道が、半島と島の間にできたそうです。自然の力ってすごいですね。その後、二つの波がぶつかって、そして、あの津波。海底の断層が動いて地震がくるなんて、人間は防げない。どうすればいいでしょう。

誤解を招くかもしれませんが、自然で破壊されても、すぐに直せる簡単な構造の家を作ったり、物をもたない生活なんか、できないでしょうか。地球って、計り知れない力を持っています。人間は地球に、ちょっと乗っかって暮らしているだけ。

最近、熊が町の近くに出てくるね。山に食べ物がないから、人里に降りてくるんだよね。山に食料さえあれば降りてこないでしょ。人間がタケノコを採り尽くしてしまったりするのも影響あるかなあ。人間が悪いのかも。島の鹿も、震災後、食料不足で大量に死んだよね。昔、島の鹿は、泳いで半島の方へ移ったらしい。島にいるサルは泳げないから、その鹿の背中に乗って来たんだって。おもしろいね。うそのような本当の話。あの辺りは潮の流れが速いから、鹿はちゃんと潮をよんだのかなあ？潮といえば、震災の後、沿岸部の港には、コンクリートの高い防波堤ができたり、高すぎる土盛りで、漁師さんたちは、魚を容易に船から陸へ上げられないらしい。潮の高い時に、港と船の高さが近くなって、やっと魚を陸へ上げられる。へんな話。年老いた漁師は、なかなか難しい。

地震で2メートル近く地盤沈下したけど、今、少しづつまた地盤が上がっているっていう。せつかく土盛りしても、こうして地球は動いているんだね。ちょっと怖い。そういえ

ば、子供のころ、沿岸部の学校に通っていて高潮の時、海からしぶきが道路に吹き上げられて、その中を通学したのを思い出す。高潮の時は危ないから絶対に、その道は通らなかった。

人間は自然の力には、かなわないと思う。

聞き書きを今後も続けたいと考えております。

発行を支えてくださいますでしょうか。

問い合わせ先 e-mail swan20110311@gmail.com